

JEG ニュースレター 194号

www.jegschweiz.com

2025年2月27日発行

小さな証

期待と不安を持って日本料理店で働き始めた筆者を待っていたのは大きな怒号でした。涙を必死にこらえて、、、 P2



招待牧師

マイヤー牧師の働きが終えたJEGでは、スイス国内や近隣国から牧師の協力を仰ぎ、また教会内の賜物ある兄弟に礼拝説をしていただいています。



新春のご挨拶

母国日本から、オセアニアから、隣国オーストリアから、スイスJEGにつながる兄弟から新年のご挨拶をいただきました。

P4-P7



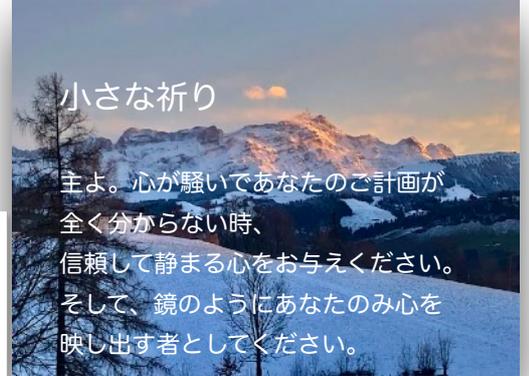
冬ユティカ感想文集

冬のユースリトリート・ユティカは、例年のようにチューリッヒ近郊で開催されました。参加者の感想集を添付します。



小さな祈り

主よ。心が騒いであなたのご計画が全く分からない時、信頼して静まる心をお与えください。そして、鏡のようにあなたのみ心を映し出す者としてください。



今私は、あなたがたを神とその恵みのみことばにゆだねます。みことばは、あなたがたを成長させ、聖なるものとされたすべての人々とともに、あなたがたに御国を受け継がせることができるのです。

使徒の働き 20:32 スイスJEG年間聖句

マイヤー牧師の辞任を受けて、希望を持ち、上を向いて、イエス様と共に、スイスJEGは新たなステージに向けて、新年を歩み始めました。



ちいさな証

やめてやるで!

トムセン・いずみマリア

スイス日本語福音キリスト教会



私は2024年7月に高校を卒業し、かねてからの夢であったギャップイヤーを過ごすことに決めました。この一年間は、自分自身を見つめ直し、新たな経験を積むための貴重な時間と捉えています。

ギャップイヤーの活動の一つとして、私はアルバイトを探し始めました。様々な職種を検討した結果、チューリッヒにある評判の高い日本食レストランで働く機会を得ることができました。日本文化の発信に貢献できること、そして異国の地で働くという経験に魅力を感じ、このレストランを選びました。

期待と不安が入り混じる中、いよいよアルバイト初日を迎えました。しかし、その日は私にとって忘れられない一日となりました。慣れない環境と緊張から、私は立て続けにミスをしてしまったのです。その度に、レストランのボスは容赦なく私を怒鳴りつけました。彼の怒声は店内に響き渡り、私はまるで責め立てられているような気持ちになりました。その時、私は自分の涙を引き留めるので必死でした。

最初のうちは、彼の態度に強い憤りを感じました。「こんなところで働くのはもう嫌だ。すぐに辞めてやる」と、何度も心の中で繰り返しました。しかし、その時、

私の心に一つの声が響いたのです。それは、神様からの語りかけでした。

「悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。あなたがたは祝福を受け継ぐために召されたのだから。」（ペテロの手紙第一3章9節）

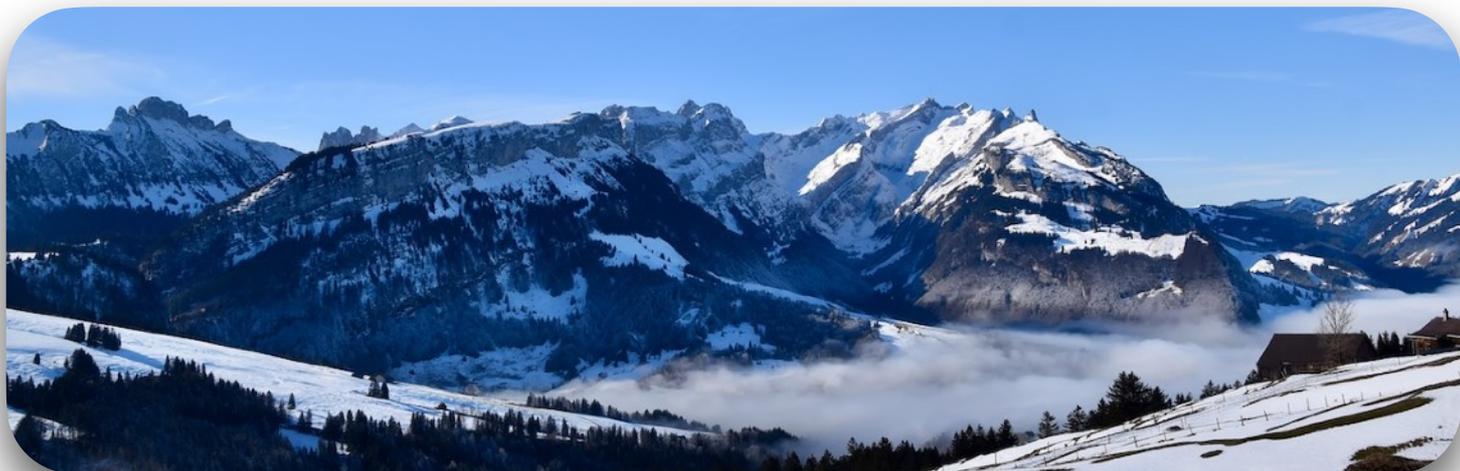
この言葉は、私に衝撃を与えました。私は、自分の未熟さ、そして心の狭さを痛感しました。同時に、神様の愛の深さと、その教えの尊さを改めて理解しました。

私は、ボスに対する怒りと恨みを手放し、彼を祝福することを決意しました。それは簡単なことではありませんでしたが、私は心の中で何度も彼の幸せを祈りました。そして、仕事に対しても、以前よりも真摯に向き合うように努めました。



この経験を通して、私は多くのことを学びました。まず、どんなに困難な状況でも、神様の言葉に従うことの大切さです。そして、人を赦し、祝福することの力です。

私は、これからもこの経験を忘れずに、神様の教えを胸に、日々を過ごしていきたいと思います。そして、いつか、このレストランで、ボスと一緒に笑い合える日が来ることを信じています。



1、第32回教会総会

1月26日(日)13時半から地下会堂にて、教会員(25名出席)によって第32回スイス日本語福音キリスト教会総会が開催されました。

教会の働きを担う各セクションのリーダーから活動報告と活動計画があり、役員選挙が行われました。2025年の教会の営みと霊的リーダーとして役員は、昨年に引き続き、原憲二兄(会長)、ミューラー・トマス兄、ヴァイランド・アティラ兄、トムセン・チャーリー兄が重責を担うことになりました。なお、昨年末に退任されたマイヤー・マルチン牧師は、アドバイザーとして、本年も役員会と牧師招聘委員会に引き続き参加され、スイスJEGをサポートしていただきます。

2、冬のスイス・ユティカ



チューリッヒ郊外のグライフェン湖畔で、24年12月27日から29日まで開催されたユース・リトリート”冬のユティカ”が豊かに祝福され、欧州各地から集まった35人の若者は、キッチンスタッフ5人と共に恵まれた三日間を過ごしました。

今回のユティカのテーマは「人生を振り返る」で、伝道者の書から阿部知幸先生に力強いみことばの解き明かしをしていただきました。メッセージはクリスチャンとノンクリスチャン共通のテーマだったので、スモールグループにおいても活発な意見交換ができました。そのほか、缶蹴りゲームをしたり、カードゲーム、色んな課題のワークショップ、賛美、と豊富なプログラムを楽しみました。日曜日には、スイスJEGのみなさんも加わって、礼拝を捧げられて感謝でした。

3、招待牧師らによるメッセージ

マイヤー牧師の辞任に伴い、次期牧師の招聘が決まるまで、スイスJEGはスイス国内及び近隣の国から牧師、宣教師をお招きして礼拝を捧げることとなります。また、スイスJEG内から賜物をも



愛餐会も継続して交わりの場を提供

つ兄弟がみことばを解き明かす試みを始めました。

原始エルサレム教会を模範とする働きで、教会内で助け合い賜物を捧げ合うことによって、専任牧師が不在であっても、教会員がお互いを愛し合い、助け合うことを通じて、スイスJEGが霊的にも成長していける機会を神様によって与えられたものと信じます。



トムセン・ハンス教授

1月26日は、チューリッヒ大学の東洋美術科教授として1月末の定年まで教鞭を執られたトムセン・ハンス兄が”あなた方の目は見ているから幸いだ”をテーマに、日本のキリスト教布教史と受難の歴史の中で生まれたキリスト教芸術を多くの貴重なスライドを用いてお話しされました。

2月9日は、日本で宣教師として半生を捧げられたウエスト・ハンス師が”聖霊との関係”をテーマにピリピ人への手紙 2:12-13からみことばを解き明かしていただきました。

2月23日は、スイスJEG役員会会長の原憲二兄が、二度に渡るトルコ旅行で得られた貴重な写真や資料を基に”パウロの第一伝道旅行の跡をたどって”～栄えに満ちた喜び”をテーマに奨励をしていただきました。



原憲二兄

これらの録画はスイスJEGのHP：www.jegschweiz.com/にアップロードされていますので、どうかご視聴ください。

4、濱崎智明君の洗礼式



2025年2月15日にストラスブル集会、「ストラスブル聖書のお話を聴く会」が礼拝を行っているEglise Evangélique Méthodiste(福音メソジスト教会)にて、2023年9月からストラスブルにギター勉強の為に留学している濱崎智明君の洗礼式が

行われました。濱崎兄は2023年秋から礼拝に通い始めて2024年5月のフランクフルト日本語福音キリスト教会での合同音楽礼拝の後に信仰告白をし、阿部知幸牧師と矢吹博牧師の2人の導きによって、洗礼準備をして来られて、この度洗礼を受ける運びとなりました。ハレルヤ!!! 今村泰典記

5、世界各地から月報/ニュースレター&メルマガが届いています。

ミラノの風、フランクフルト日本語福音教会月報ひろば、工藤篤子メルマガ、井野葉由美メルマガ、バルセロナ日本語で聖書を読む会月報、デュッセルドルフ日本語キリスト教会月報、森ゆりニュースレター、吉村美穂メルマガ、ミッション”宣教の声”、”ハーベスト・タイム月報”が届いています。お読みになりたい方は、松林までご連絡ください。



日出ずる国から

老人は夢を見る 高木攻一 泉佐野キリスト教会



スイスの敬愛する松林兄よりご連絡頂き、近況をお伝えすべく重い筆ならぬ軽いキーを叩いています。

早いもので、70歳でウィーンを後に、大阪に赴任し11年目を迎えます。牧師定年制の無い団体で、無牧の教会を紹介され、80歳に成ろうとし、なお現役で牧師職を務めおります。

「見よ、わたしは、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を開いておいた。」との黙示録3章8節の御言葉を、ウィーンを去るにあたり主の約束として頂いておりました。

関西空港を控えた泉佐野は、気候も温順で老後の生活と奉仕の場所として、主は最善を備えてくださいました。妻も私も加齢のゆえに体力の衰えは避け難いものがありますが、説教のご奉仕のできる限りは講壇に立たせて頂き、魂の看取りとしての牧会配慮を果たしたいと祈り備えております。

2年半ほど前に、直腸癌の手術を受け、切除部分の縫合の不具合のため二度手術となり、5日



退院のところを37日も入院が続き、細身のところ更に痩せ細ってしまいました。

ところが感謝なことに、点滴栄養摂取のために胃腸がしっかり休んだのでしょうか、それからは何を食べても丈夫で、しっかりした体調となり、至って元気にしております。

私たちがウィーンから大阪に赴任するのと並行して、石川県の金沢市から奏楽奉仕の出来る次女の恵が同居しており、教会にとっても、それに後期高齢の私たちにとっても、大きな力となり慰めとなっております。



「老いては子に従え」で、マゴマゴする私たちが叱られることもあります。

若い牧師のように飛び回ることのできない分、初代教会の日に三度の定刻祈禱を取り入れ、午前9時、昼12時、午後3時に妻とギターで賛美し、聖書日課を読み、使徒信条を告白し、短く執りなし祈り、主の祈りを唱和することを習慣化しています。

まだベテロのように天からの幻は経験していませんが、何が起るか楽しみにしているのです。「若者は幻を見、老人は夢を見る」主の来臨と天国を夢見て、感謝の日々を過ごしております。日本に来られる際には、よろしければお立ち寄りください。



伝道師としての働き 津田和明 小金井教会



いつもお祈りで支えて下さってありがとうございます。

2025年に入り、21世紀ももう四半期が終わろうとしているのかと思うと、時の流れの速さを感じております。

年末の礼拝でメッセージを語った後から熱がでまして、その後妻と娘はインフルエンザにかかりました。当初は元旦礼拝の後に家族で私の実家に帰る予定でしたが、結果私一人での帰省となりました。

現在は家族も回復して元気に過ごしております。娘も5歳になり、教会の同世代の子どもたちと遊んだり、近くの教会幼稚園に元気に通っています。

スイスJEGと欧州の皆さんのお祈りに支えられて、私は伝道者としての働きが4年目に入ろうとしています。まだ詳しくはお話できませんが、来年度からは大きな環境の変化もありそうですので、引き続きお祈りでささえていただけますと感謝です。

欧州の兄弟姉妹が邦人宣教のための主の器として、今年もますます豊かに用いられますようお祈りいたします。今年もどうぞよろしくお祈りいたします。



日出ずる国から

みことばの成就に感謝

ローゼンクランツ直美
ジーザスコール東京



皆様、いかがお過ごしでしょうか？年末は東京、福岡、宮崎各教会でのクリスマス伝道集会に奔走し、また

年末年始はリーダーキャンプがあり、密度濃い恵みの時を過ごしました。

息子の志音、娘の安奈も大学を1年休学し、ニューヨークのメトロの子どものミニストリーで奉仕して、信仰面においても色々なことを体験する恵みに与りました。ビザの関係で一時的に滞ったスイスでもJEGに参加し、皆様とも良いお交わりの時が与えられていること感謝です。



24年、ニューヨークで家族が合流

昨年を振り返ると、私たちにとってのハイライトの一つは夏休みにやってきたスイスの甥っ子のことです。高校生のラースはとても賢くストレートで、「教会には何度か行ったことはあるが自分は無神論者で、神を信じるつもりはない。」と初日からはっきりと私たちに言ってきました。

とはいえ、私たちと行動を共にすべく教会で過ごすたび、みことばを聞き、周りの人々の愛に触れ、また救われて人生が変えられた数々の証しを聞き、2週間経つ頃には「神じゃなくても、彼らが信じて幸せになるなら彼らにとっては良いことだ。」と言うようになりました。

夏の宮崎、福岡、東京の3つのキャンプに参加し、途中ついに、「どうやって信じるの？」と聞いてきました！イエスキリストを受け入れ態度がすっかり変わってしまった彼は、自分も洗礼を受けたい、と信仰を告白して東京キャンプで洗礼を受けたのでした。



私たち家族を含め彼の心の変化を見守っていた教会一同は、彼の大胆な信仰告白のスピーチにすっかり感動し、主を賛美しました！

これも私たちのスイスの両親の長年の祈りの応えでもあり、家族も救われるというみことばの成就であることを感謝します。

今年は5月にミニストリースクールの12人とフィリピン宣教旅行に行きますが、福音の力は国境を越えて働くことに励まされ、神様への期待感をもって前進し続けたいと思います。

皆様の1年がすばらしい主の祝福で満たされますように！

ジーザスコール東京の紹介ムービー
<https://youtu.be/jHQ1c7-WUT4?si=BCnuHntHdIpOmTcO>

新しい教会堂

クンツ・プリスキラ
茨城・桜川キリスト教会



桜川キリスト教会で新会堂ができました。去年4月に建築家と、また6月に建設会社と契約を結ぶことができました。

7月の起工式後、すべてが順調に進み、11月末までに工事は完了、12月3日に引き渡しがありました。建設会社との信頼関係もよくて、とてもいい建物を建設してくださって感謝しています。

インパクト・チーム（ドイツから6人の若者が弟子訓練と文化体験のために3ヶ月間来日）の助けもあり、旧会堂から新会堂への引越しをスムーズに行うことができました。

新しい建物でクリスマス・イベント（カフェ、コンサート、礼拝）を行うことができ、とても嬉しく思っています。神様が必要な資金も与えてくださったことに驚いています。多くの方の献金や教会債が与えられたので、すべての請求書を期限内に支払うことができました。今から10年後返済が完了することを願い、祈っています。



1月19日に献堂式を行いました。当教会の方々15名、他教会の大人35名、子供6名、合計60名近くが参加しました。

日出ずる国から

共に神に賛美し、神が成してくださったことを感謝することは、私たち信徒7人の小さな群れにとって大きな励ましとなりました。神様が新しい建物だけではなく、私たちをも用いてくださり、より多くの日本人が来て、イエス様を知ることができるように、どうかご一緒にお祈りください。

茨城・桜川キリスト教会のHP
<https://sakuragawa-church.com/>

神様の憐れみと光と平和を 大八木タビタ 上作延キリスト教会



昨年8月に家族四人でスイスJEGの礼拝に参加でき、夏休みの最中で、お会いできなかった方もいましたが、懐かしい方々にお会いでき

て、とてもうれしかったです。

去年の4月から、次男の勲も大学生になりました。自転車で15分で通える距離の大学で、応用化学の勉強も楽しく充実しているようです。

長男の献はまだ3年生ですが、ここ数か月、就職活動で忙しくしてきました。今は、選択肢を二つか三つに絞ってきたところですが、良い就職ができますように祈っていただけたら幸いです。

息子二人とも、KGK（キリスト者学生会）の集まりに熱心に参加して、信仰の仲間たちとのつながりができて、楽しく通っています。

その中で、献はキャンプの準備委員や学内聖書研究会のリーダーなど、役割も与えています。チャレンジでもありますが、先輩たちや、主任の方に支えられています。

夫は、職場で今働いている部門でよい同僚に恵まれ、比較的落ち着いた仕事できています。私は教会の交わりに感謝しています。息子たちも一緒に通って、それぞれの奉仕があります。会計で長年

責任を持ってくださっていた姉妹が引退なさって、バトンを私に渡したので、もう一人の姉妹と二人でその奉仕に当たっています。

スイスの母もそうですが、夫の家族、親戚も高齢が進み、いつ、どのようにサポートしてあげられるのか、模索していると同時に、救いのためにお祈りしています。ゼカリヤの賛歌にあるように（ルカ1:78~79）神様の憐れみと光と平和を受け取れますように。

今はしばらく無牧で教会生活をしておられる兄弟姉妹の皆様にも、月二回の礼拝に「そのあわれみにより、日の出がいと高さ所からわれらを訪れ」と、主の助けを与えられますようにお祈りいたします。



アッペンツェラーランドの冬



豊かな実りを感じつつ

菊地祥彦

オーストラリア・アデレード

2016年から始まったオーストラリア・アデレードでの生活は、今年で9年目に入ります。

息子の眞理（しんり）は1月で8歳になり、娘の眞恵（さなえ）は1歳になりました。一昨年の12月に生まれた眞恵の誕生は、私たちにとって大きな喜びでした。毎日、仕事に、ホームス

クーリングに、子育てに忙しく過ごしていますが、二人の可愛い子供に癒され励まされています。

こちらに私と妻・恵美の家族はいませんが、それでも教会の家族やクリスチャン・ホームスクーリンググループの友人たちに支えられています。眞恵が生まれた際、どれほどの食事が我が家に運ばれてきたでしょうか！



眞理が5歳の時から始まったホームスクーリングは、オーストラリアという環境、また、私たちが属するクリスチャンのホームスクーリンググループに恵まれ、豊かな実りを感じつつ4年目を迎えようとしています。日々、楽しさや喜び、感動や真剣さを持ちながら学ぶ息子の姿を見て、感謝を覚えています。

キリストはいつも真実である

矢部晶宏

オーストリア・リンツ OM宣教師



本年も、スイスJEGに繋がっておられる皆様、主イエスさまの麗しさを大いに体験され、主への愛が新たにされ、喜びで益々満たされますように。

さて、日本人の男性で、現在ベトナムからフランスまで100キロを超えるリヤカーを引いて徒歩でユーラシア大陸を横断している方がいます。しばらく前にたまたまYoutubeで見つけて、今では家族みんなで彼の旅の様子を毎日のように追っています。

50度近くの猛暑を乗り越えたかと思えば、マイナス10度を超える極寒の中での野宿、盗難や病気に屈せず彼は足をひたすら西へと進めます。私たち夫婦が普段係わっている中東出身の難民や移民の人たちが、どのような環境で育ったのかを垣間見れるので、より一層興味深いのです。

ある時、傾斜9°Cの永遠と続く登り坂に、彼はモチベーションを無くし、つぶやきました。「自分で始めた旅なのに、歩くのが辛い。モチベーションも上がらない。歩きたく



ない。でも、分かったことは、やる気って、待っても湧いてくるものではなく、歩いていたら（やる気が）出てくるものだ。だからこの足を前に進める。」

これは信仰生活にも当てはまることだと思います。信仰が湧いても湧かなくても、毎日主に従っていく、御言葉に生きる。祈りの答えが見えても見えなくても、祈り続ける。

キリスト者は自分の考えや感情によってではなく、信仰によって生き、その歩みを進める。そして、そのように生きる時、真実な神さまはサプライズや御業を現してくださいませ。

どうしても救われてほしいたましいがあります。いやされてほしい人がいます。開かれてほしい扉があります。2025年、世界や私たちを取り巻く状況がどのように変化するか分かりません。さまざまな感情が湧いてくるかもしれません。

しかし、いつも変わらないのは、私たちの主イエスさまは良いお方、真実なお方であること。この主にあって、兄弟姉妹の皆様と共に信仰の歩みができる幸いを感謝します。「私たちが真実でなくても、キリストは常に真実である。ご自分を否むことができないからである。」2テモテ2・13